



富山大学理学部後援会報



数学科



物理学科



化学科



生物学科



地球
科学科



生物圏
環境科学科

りっか

第8号 2013.3



後援会報の名称「りっか」とは…

「りっか」とは、雪の異称であり、漢字では六花と書きます。六角形の結晶の麗姿を花にたとえています。私たちの理学部章は雪の結晶がモチーフとなっています。全国でもまれな、6学科から構成されている理学部であることを象徴しています。

ごあいさつ

理学部後援会会長 川端 政克

暖春の候 後援会会員の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

今般、後援会報りっか第8号を発刊することができましたのも、皆様の後援会活動へのご理解、ご支援の賜物と感謝申し上げます。

さて、国内外に眼を向ければ政権交代がなされ、これまで以上の、経済再生、震災復興、外交強化、また領土問題、テロ事件などいろいろな課題を謳っています。その為に諸問題が発生し多事多端の様です。身近な所では、相変わらずの就職難、そして長期不況に不安感を募らせています。速く安居楽業のできる国を創って欲しいと思います。

下学上達と云う言葉があります。身近な所から学び、疑問を抱き、次第に学問の奥義に進み至ること、まさに理学部の理念ではないでしょうか。その言葉を軸とし、後援会として大学関係者の方々と相談しより良い教育環境の充実などの支援に努めて行きたいと考えています。

会員の皆様におかれましても、今後とも理学部後援会のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



保護者の皆さま

理学部長 清水 正明

平素より理学部の教育に対し、格別のご理解とご協力をいただき、心からお礼申し上げます。本年度は、学部から218名、大学院（修士課程）から80名が社会に巣立ちます。長引く経済不況による就職難のなか厳しい就職活動を乗り越えたかれらを心より賞賛したいと思います。理学部としても支援の取り組みをこれまで以上に強めてまいります。

今年度の理学部の教育の特色として、学部共通教育の改革、能力別クラス編成、同窓会と連携したキャリア教育を指摘させていただきます。

学部共通教育の改革として、理学部の全学生を対象にした「地球生命環境理学」（専門基礎科目、必修）および「科学コミュニケーション」（専攻科目、選択）を開講しました。「地球生命環境理学」は、ヒトを含む生物と地球環境の相互作用、肝要問題、地球と生物の共生を中心に、環境マインドを、「科学コミュニケーション」は、科学を正しく、わかりやすく社会に伝えるための能力を育成し、今年度からサイエンスメディアーターを認定します。能力別クラス編成は、物理学演習A、B（専攻科目、選択）、位相数学序説（専攻科目、選択）、線形代数学II（専攻科目、必修）で実施されています。同窓会と連携したキャリア教育として、平成24年度から「理系キャリアデザイン」（専門基礎科目）を開講します。

理学部では、以前からサイエンス・フェスティバルを開催しておりましたが、今年度は大学開放事業として、理工ジョイントフェスタを開催しました。サイエンス・フェスティバル2012～未知なる科学「楽」のSHOW TIME!!～『科楽』をメインテーマに、科学を担う青少年に理学の楽しさやすばらしさを伝え、一般の方々にはサイエンスをわかりやすく、楽しく伝えることを通し、学生にとっては、科学のすばらしさを再認識する活きた教育現場となりました。KNB（北日本放送株式会社）や新聞各紙で取り上げられましたので、皆様もご存知のことと思います。

今後とも保護者の皆様との連携を密にしながら、よりよい理学部の教育をめざしたいと思います。お力添えのほどなにとぞよろしくお願い申し上げます。

平成25年度 キャンパススケジュール

CAMPUS SCHEDULE

4	○ 入学式 ○ 新入生 オリエンテーション ○ 授業開始（前期）	◆ 新入生保護者懇談会
5		
6	○ 第3年次編入学試験	◆ 北陸地区 国立大学体育大会 ◆ 後援会理事会・総会
7		
8	○ 期末試験 ○ 夏季休業開始 ○ 大学院入学試験	◆ オープンキャンパス ◆ マーレイ州立大学（米） への語学研修
9	○ 集中講義	◆ サイエンス フェスティバル
10	○ 授業開始（後期）	◆ 開学記念日 ◆ 大学祭 ◆ 北陸三県大学 学生交歓芸術祭 ◆ 就職・進学合同説明会
11	○ 推薦入学等特別選抜試験	
12	○ 冬季休業開始	
1	○ 授業再開 ○ 大学入試センター試験	
2	○ 期末試験・集中講義 ○ 卒業論文発表会 ○ 入学試験（前期）	
3	○ 入学試験（後期） ○ 学位記授与式	

希 土類の錯体から発する円偏光発光を観察するための、顕微分光システムを開発しています。測定装置を自作して装置の原理まで知るといって、化学科には珍しい特徴に興味を持ち、この研究室を選びました。円偏光発光を顕微鏡で見るといことは、世界でもほとんどされていないことなので、日々やりがいを感じています。



いわさき みさこ
岩崎 美紗子さん
生物学科4年生

私 は、雌雄異株植物であるスイバの性決定に関する研究をしています。子どもの頃から生物が好きで、生物学科に進みました。入学時は動物の研究をやりたかったのですが、勉強をしていくうちに、植物への興味が強くなりこの分野を選びました。今後は大学院で、バラ科の植物についても並行して研究していく予定です。将来は生物学に関わる仕事をしたいと思っています。



まさじま かずしげ
政島 和茂さん
化学科4年生

僕 は、粘土鉱物の海緑石が分布している地層を観察することで、昔の堆積環境について研究しています。4年生になってからは、自分一人でフィールドワークをするので、最初はとまどいもありました。舗装されていない崖を探したり、私有地では地主さんとの交渉をしたりと大変なこともありましたが、思考力・表現力が日々鍛えられました。



むかいとうげ あきら
向 峠 旭さん
地球科学科4年生

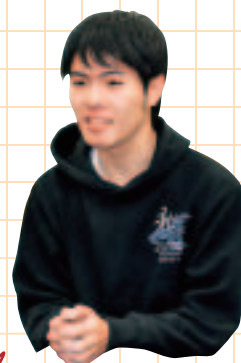
理学部 フィールド・オブ・ドリームス

研究室やフィールドで、日々独創的な応用研究や、環境問題に関する研究、実験に励む理学部の学生たち。彼らに、研究への思いや将来の夢について語ってもらいました。



こんどう しんのすけ
近藤 慎之助さん
生物圏環境科学科4年生

シ ダ植物のヘビノネゴザの配偶体を使って、土壌を浄化するファイトレメディエーションについて研究しています。配偶体にカドミウムを添加する実験をした時には、一週間深夜に学校に来たこともありました。配偶体にもカドミウムが蓄積することが分かった時には、とてもうれしかったです。昔から植物が好きですし、土と触れ合うのが好きなので、将来は研究を生かして農業に携わるのが夢です。



にし だいち
西 大地さん
数学科4年生

僕 は今、4年生で研究室に入るためにいろいろな分野の勉強をしているところです。どの分野も相互に関わっているところが面白いですし、実験も楽しくて、決めるのが難しいです。物理学科に進んでからは、自然現象が数式できれいに表せることが分かり、実験の楽しさにも目覚め、物理が大好きになりました。実験がやりたくて、今年サイエンスフェスティバルの実行委員長を引き受けたのも、良い勉強になりました。



みなみむら あとむ
南村 亜登夢さん
物理学科3年生

僕 は、整数の性質や素数の関係について研究しています。子どもの頃から文字、漢字、数字と計算が好きで、数学科に進みました。定義を理解していないと次に進めないのが難しいですが、昔から漠然と思っていたことが証明されていることが分かった時は、うれしかったです。ゼミの仲間とのチームワークも良く、一つのテーマを皆で解決していくのはとても楽しく、充実した毎日です。

さまざまな交流を通して 学び楽しむ学生生活

学生生活の中で忘れることができないのが、日々の研究と、先生方や同級生、先輩、後輩たちとの交流の思い出です。理学部に学ぶ皆さんも、授業や学科ごとのイベントなどを通して、日々貴重な経験を積んでいます。

生物学科・地球科学科・生物圏環境科学科の皆さんに、特に印象に残る交流の思い出について語ってもらいました。



——研究内容について教えてください。

古田 私は、ゴマの葉からDNAを取り出して、花が咲く時期を決める遺伝子について調べています。まとめの発表をする前には眠れない時もありますが、研究は楽しいです。

野上 僕は、^{きすいいき}汽水域に住むオタマジャクシの尿素合成について研究しています。サンプリングの時期は大変ですが、研究室の雰囲気が良くて、先輩が皆さん優しいので楽しく研究しています。

——研究生活で特に印象に残ったことは？

古田 植物を扱う研究なので、肥料をまいたり、草むしりをしたりと、慣れない農作業が印象的でした。力仕事は大変でしたが、研究室の仲間と一緒に、普段なかなかできない経験ができて、いい思い出になりました。



生物学科4年生
の ^{かみ} ^{さとし}
野上 智史さん

野上 先生や研究室の仲間と一緒に、オオヒキガエルの採集と実験のため小笠原に行ったことです。夏だったので、採集の合間に泳いだりして楽しかったです。

——学生生活で楽しかったことは？

古田 3年生から2年間、富山県内の大学生を対象に行うイベント「就活レシピ」の実行委員をやりました。春から4カ月くらいかけて企画、人集め、広告などをやったので、大変なこともありましたが、とてもいい経験ができました。企業の方や、先輩方など、いろいろな人と話して視野も広がり、積極性も身に付いたと思います。

野上 研究室単位のソフトボール大会に参加したことが、楽しかったです。普段交流が少ない植物系の研究室の人たちとも仲良くなれました。

また、僕たちの学年の生物学科はとても仲ががいいので、3年生の時には有志でキャンプに行ったり、バーベキューや花火もしました。

古田 2年生の時の学園祭には、生物学科でフライドポテト詰め放題のお店を出して盛り上がりましたね(笑)。

それに、教職の授業では他学科の友達もできて楽しかったです。4年間とても充実していたので、卒業が少し寂しいです。

野上 ぜひ同窓会を開きたいですね(笑)。



生物学科4年生
^{ふるた} ^{きみか}
古田 季美花さん

——研究内容について教えてください。

小林 火山の堆積物の岩石学的研究をしています。石のサンプルを持ち帰るので、結構体力が必要です。持ち帰った後も、薄片を作るのにすごく時間がかかるので、きれいにできた時は本当にうれしいです。

宮本 先輩方の研究を参考に、先生とどうい研究をするか検討中です。私も火山関係の研究をしたいと思っています。

——ゼミの雰囲気はどうですか？

小林 研究の時は皆真面目ですが、遊ぶ時はワイワイとにぎやかになります。ゼミで年に2～3回パーティーを開くんですが、とても楽しいです。

宮本 3年生歓迎会やクリスマスパーティーの時に、4年生の先輩方が、研究室にある炊飯器でご飯を炊いてくれるのが、とてもおいしくて(笑)。



地球科学科3年生
みやもと ありさ
宮本 安里紗さん

逆に「学年を超えた縦の交流を持とう」という趣旨で開催される懇親会「縦コン」の時には、3年生が準備します。くじびきや名札を作ったり、受付をしたりといった準備を通して、それまであまり話さなかった人とも仲良くなりました。

——これまでで一番の思い出は何ですか？

小林 3年次の必修でやった「調査法実習」が印象に残っています。3週間八尾の山の中にこもって調査の練習をするのですが、食事は自炊で早寝早起きの生活の中、皆とても仲良くなります。

宮本 やはりフィールドに出るのが、体力は使いますが楽しいです。特に、1年生の時から授業で行く「巡検」が毎回遠足気分、行き帰りの車の中も会話がはずみます。3年生の時には北海道へも行きました。

小林 学校の友達としかできない話をする時間も、とても楽しいです。勉強をしていくうちに石の面白さに魅せられた仲間なので、岩石や火山の話で盛り上がり(笑)。

——将来の夢は？

小林 大学院に進学して、火山堆積物の研究を続けたいと思っています。

宮本 今は就職活動中で、社会人の方たちのお話を聞くと参考になります。大学院で研究をしたい気持ちと、人とかわる仕事がしたいという気持ちの間で迷っています。



地球科学科4年生
こばやし ともこ
小林 智子さん

——研究内容について教えてください。

岡本 私は昔から植物が好きで、環境にも関心があるので、植物が土壌を浄化するファイトレメディエーションについて研究したいと考えています。

石田 僕も環境に興味があって、希少動物を研究したかったので、島に住んでいるモグラの寄生虫について研究しています。モグラを捕まえるための罠を仕掛けて、捕まえられた時はうれしいですが、逃げられた時はくやしいですね。

研究室の仲間は皆仲が良く、お互いの研究テーマを超えて協力しあっている、自分の研究以外のことを体験できるのもうれしいです。

——富山大学の仲間について教えてください。



大学院理工学教育部修士課程
生物圏環境科学専攻2年生
いしだ ひろあき
石田 寛明さん

石田 僕はモグラの研究がしたくて、県外の大学から大学院に進学してきたのですが、富山大学生の第一印象は「みんな真面目だなあ」ということでした。

仲良くなってからは、富山のことを何も知らなかった、氷見や魚津、立山などへ遊びに連れて行って

もらいました。それに、雪のこともすごく丁寧に教えてくれて、雪道の歩き方についても習いました(笑)。

それに、研究室で誕生会を開く時には、OBの方も都合が良ければ参加してくれて、縦のつながりがあったとてもいいなと思いました。

岡本 「サイエンスフェスティバル」で学科代表をしたのですが、最初は何をしていいかわからなくて困りました。そんな時、先生方や、先輩、友達がとても親身になって協力してくれたおかげで、なんとか成功させることができました。周りの人にとっても恵まれた学生生活だと思います。実験に参加した子どもたちが目をキラキラさせてくれたことも、とてもうれしかったです。

——将来の夢は？

石田 自分の中で知識が増えていく学生生活は、毎日がとても充実しています。一生研究を続けていきたいと思っています。

岡本 私に理科の素晴らしさを教えてくれた先生方のように、将来は中学校の理科の先生になって、理科の面白さを子どもたちに伝えたいと思っています。



生物圏環境科学科3年生
おかもと あやか
岡本 彩可さん

学生による学生のための 研究者レポート

—理学部の若き研究者たちの最新情報を公開—

理学部の学生はどんな研究をしているのだろう、と思われたことはありませんか？ここには、学生が先輩たちにインタビューして、その研究内容を分かりやすく紹介した記事を掲載しました。今後も、少しずつ紹介していきます。



インタビュー × 酒徳 昭宏

安田 傑 三宅菜々実
橋本優衣子 斎藤 拓哉
細丸 晶世 中川 知美

File #007 ▶

酒徳 昭宏(さかとく あきひろ)

富山大学大学院理工学教育部博士(理学)

日本学術振興会特別研究員DC2

出身:愛知県名古屋

好きな食べ物:アスパラガス、春菊、くせのあるもの



菌はツンデレ

■ 細菌との出会い

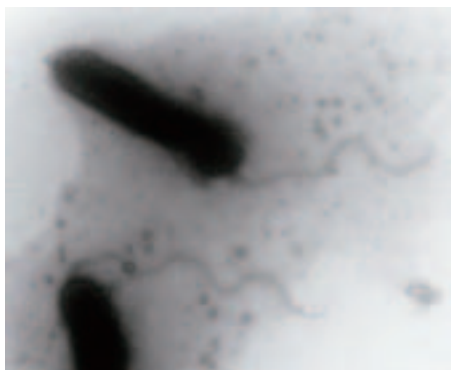
海藻、という言葉聞いて何を思い浮かべるか。昆布、ワカメ、海苔、食品のイメージが強いのではないだろうか。しかし、その用途は食品だけでなく、化粧品や衣料品に広がっている。

世界で年間1700万トンとれる海藻には使われない部分もあり、焼却処分されるものもある。この使われない部分を二次利用しようとしても、化学的、物理的な処理は難しい。そこで、海藻を分解出来る菌の出番である。

細菌分野へ進もうと思ったきっかけは研究室の主である中村省吾教授である。酒徳さんは講義の中で微生物の分解能を利用した環境浄化に興味を持った。当時ホットな研究分野であった事もあり、その一端を担いたい、そう決意して、中村研究室の扉を叩いたのである。

■ 僕の菌が一番かっこいい

菌は通常、1種類の海藻しか分解できない。しかし、酒徳さんは富山湾で紅藻、褐藻、緑藻の3種類を分解できる菌を見つけた。この菌の種名はSaccharophagusという。この種の菌は世界的にも珍しく、酒徳さんが見つけた菌は2例目の新種であった。見つけるまでの過程は大変で、フラスコの中に栄養素の入った培地とワカメを入れ、富山湾の堆積物を加える。それを振りながら培養(振盪培養)し、ワカメが分解されているかを見て菌の存在を見つける。その菌の一つ一つについて、分解活性、遺伝子を調べていくのである。酒徳さん曰く、富山は研究するには大変良い環境であり、立山の雪、富山湾の海中中には研究のしがいがある菌が豊富にあるとい



酒徳さんが見つけた菌、Myt-1の電子顕微鏡写真

う。菌を見つけるために野外作業を行うこともあり、季節を問わず天候の荒れた日や波の荒れた日もあるが、そんな中での楽しみはお昼ごはん和酒徳さんは語った。

卒業研究では、先輩の仕事を引き継いで、富山湾に生息するムラサキイガイをターゲットに、汚染物質が体内に入り込む事で発現するストレス蛋白質の量的変化を調べ、河川や海の水、いわゆる環境水の汚染との関連性を研究していた。

博士課程では、原点に戻り、中村教授の講義で見たエネルギー問題の解決の糸口として期待される生物由来の資源、バイオマスに注目して研究に取り組み、今に至る。

最近では、菌の持つ分解能力を明らかにすべく、菌の遺伝子や活性を中心に調べており、その研究を楽しんでいる。

■ 研究者のココロ

「就職しようと思われなかったんですか？」という質問に対し、「研究職に就活もしたよ。ただねえ…やっぱり、気になっちゃうんだよねえ」と続ける。「どこにいたって、何をしていたって、やっぱりその子(菌)の状態見たいやん」とのこと。刻々と変化する生物を扱う研究者ならではの感性なのかもしれない。

『あきらめない!へこまない!くじけない!』が持ち味の酒徳さん。生物を扱っているから毎日でも学校に来て見たい、そうすれば生物が応えてくれる、と語ってくれた。

■ Q&A

Q. 研究者を目指す学生に一言

A. …頑張ってください。(笑) 学部や修士で卒業する子も、たった一年、三年やん。死ぬ気でがんばればいいんじゃない? そうすればいい結果出るし。中途半端にやったら中途半端な結果しか出ないし、どれだけ時間かけてきたか。時間をかけましょう。他にもやりたい事は沢山あるけどね。遊びたいし…メリハリじゃん、メリハリ。やる時はやる、遊ぶ時は遊ぶ。それが、重要。…あとは諦めない。それとへこまない。100回やって99回は失敗だから。

Q. 最後に、酒徳さんにとって菌とは?

A. パートナーみたいなものです。菌はツンデレで、そこが可愛い(笑)。

インタビュー 前馬 純一

桶谷祐稀美 松本 惇
桜井 巨大 江尻のりこ
青山 高幸 齋藤 令奈

File #008 ▶

前馬 純一（まえば じゅんいち）

富山大学院理工学教育部修士課程化学専攻1年

誕生日：平成元年9月1日生まれ 23歳

出身：富山県高岡市

好きなもの：鶏のから揚げ、アイス、猫



光らないモノを光らせたい！

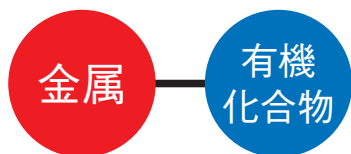
近年、有機ELディスプレイの研究が注目されている。携帯電話の画面にも利用されている有機ELディスプレイの発光材料には高価な希少金属（レアメタル）を用いるため、安価な金属を用いた新たな発光材料の開発が必要である。今回は、そんな新しい発光材料の開発のカギとなる研究を行っている前馬純一さんにお話を伺った。

■ 光らせるには？

『光るモノを見ても仕方がない』

光らないモノを光らせたいからこそ、逆に、光らないモノがなぜ光らないのか、という「光らないメカニズム」を解明している。

前馬さんの研究テーマは「光らない金属化合物を光らせる方法を明らかにする」ことである。彼の扱っている金属化合物とは、金属と有機物が結びついたものである。金属化合物は光を受けると、高いエネルギー状態になり、やがてもとの状態に戻る。そのとき、あるものはリン光という光を発し、あるものは光らずに熱を出す。前馬さんは金属化合物の中でも光らないものに注目し、それらを光らせたいと思っている。



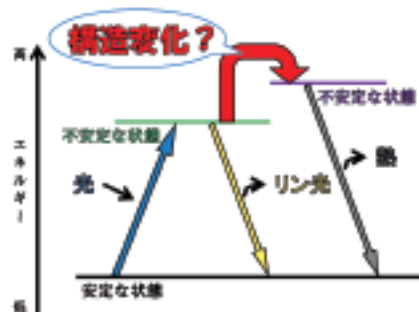
金属化合物のイメージ図

■ 光らないメカニズムの追究

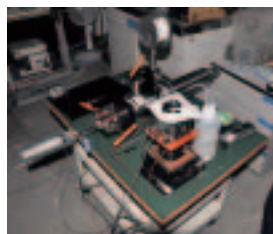
前馬さんが注目するのは、低温では光るが室温では光らない金属化合物だ。彼は、この「光る・光らない」の差が分子の構造の違いから来ると仮説を立て、温度によってどういう構造の変化が起きているかを調べている。これを解き明かすことができれば、室温でも安定的に光るものの設計に繋がるだろう。理論的には、室温で光らないのは体積の膨張が関係していると考えられた。膨張を起さなければ光るはず！そう考えた前馬さんは、光らない金属化合物からも、実はとても弱いリン光が出ていることに着目した。圧力をかけて膨張を抑えることで、ごく弱いリン光の持続時間を測定し、測定結果からどのような変化があるかを分析している。

問題は、リン光が通常の測定装置では感知できないほど弱いこと。光子（光の粒子）1個レベルまで検出できる優れた測定装置を自らの手で改良し、室温で光らない様々な金属化合物の実験を続けている。

「光らないメカニズム」を解明することができれば、中国による輸出制限など、レアメタルが抱える様々な問題を打ち破る一助となるであろう。



金属化合物が光を受けた時の様子



高圧測定装置



発光寿命測定装置

■ インタビューQ&A

Q. 光化学を研究分野に選んだのはどうしてですか？

A. 有機化学が得意だったので、本当は有機化学の研究室に行こうと思っていました。ですが、先輩たちの卒業論文発表を聞き、光化学の研究室に興味を持ちました。研究をやっていくなら、よくわからない研究室に行った方が面白いだろうと思って入りました。

Q. 研究をされていて楽しいことや大変なことはありますか？

A. ちゃんと光らない物質の弱い発光をとらえて、ノイズのないきれいなデータが取れた時、装置が順調に動く時は楽しいです。大変なことは、とらえた発光が試料の発光か不純物の発光かそれともノイズかをつきとめるまでですね。

Q. 今後の目標を教えてください！

A. 代々先輩方が改良してきた測定装置の潜在能力を上げてもっと良くすること、装置を使う技術をもっときれいなデータを取れるようにすることです。

これらの研究紹介記事は、「科学コミュニケーションⅡ」の講義（主講師：元村有希子（毎日新聞社））で作成したものです。

平成24年度 理学部後援会予算

収入の部

費 目	金 額	摘 要
繰越金	3,342,836円	
会 費	3,900,000円	平成24年度入学生97名(4月～) 平成25年度入学生 96名(24/3月) ※合格発表後入会依頼のため25年度内入金者予定 3年次編入学生3名 賛助会員2名
利 息	500円	
合 計	7,243,336円	

支出の部

費 目	金 額	摘 要
事業費	4,100,000円	保護者への案内・通信 20万円 学習・実験等設備充実 300万円 学生支援図書カード 10万円 新入生保護者懇談会 18万円 海外語学研修等助成 40万円 後援会目的達成経費(予備費) 22万円
事務費	450,000円	事務用消耗品類 4万円 会報他印刷類 38万円 振込手数料 3万円
会議費	80,000円	総会(弁当、お茶)
人件費	210,000円	事務員手当
小 計	4,840,000円	
繰越金	2,403,336円	
合 計	7,243,336円	

平成24年度 理学部後援会予算収支中間報告

(2012.4.1～2013.1.31)

収入の部

費 目	金 額	摘 要
繰越金	3,342,836円	前年度から
会 費	2,140,000円	24年度入学生 他
利 息	296円	
合 計	5,483,132円	

支出の部

費 目	金 額	摘 要
事業費	3,383,642円	1. 保護者への連絡・広報 18.3万円 2. 実習・実験等設備充実 300万円 3. 新入生保護者懇談会 16.0万円 4. 学生支援謝礼 0.4万円 5. 理学祭助成 3.6万円
事務費	24,728円	振込手数料、文具 他
会議費	47,580円	総会費用
人件費	178,644円	後援会事務補佐員
合 計	3,634,594円	

◆理学部後援会への入会について(お願い)

理学部後援会は、平成16年12月に「学生の教育活動及び就職活動等の支援」を目的に設立され、これまで多くの支援を行ってきました。

保護者各位におかれましては、後援会設置の趣旨をご理解いただき、ぜひともご入会くださいますようお願いいたします。

会費/学部学生：20,000円、編入学生：10,000円

いずれも、入学時のみ。

平成24年度 理学部後援会役員

会 長	川端 政克(4年生理事兼任)
副会長	泉 喜宣(3年生理事兼任)
副会長	樋口 弘行(化学科教授)
理 事	清水 正明(理学部長)
理 事	各学年2名 計8名、各学科教員6名
理 事	松永 豊(賛助会員)
理 事	高井 正三(賛助会員)
監 事	吉田 和貴(正会員)
監 事	石川 義和(教 員)

平成24年度3月新規学校卒業者の進学・求職・就職の状況

	男	女	合計
① 卒業予定者数	137	76	213
② ①のうち進学者数	56	16	72
③ 進学率【②/①(%)】	40.9	21.1	33.8
④ ①のうち求職者数	67	59	126
⑤ ④のうち就職内定者数	52	55	107
⑤のうち富山県内	16	19	35
⑤のうち富山県外	36	36	72
⑥ 内定率【⑤/④(%)】	77.6	93.2	84.9

平成25年2月末日現在

平成24年度理学部学生表彰

表彰の基準は「特に成績の優れた者」です。
理学部全体から1名の学長表彰者、各学科から
3名の学部長表彰者が選ばれています。

数学科

朝比奈のぞみ
西 田 紘 史
山 本 紗 千

物理学科

倉内 みなみ
藤 田 優
渡 邊 拓

化学科

大 西 智 暁
國 友 静 香
飛 弾 政 宏

生物学科

泉 澤 美 希
岩 崎 美 紗 子
早 瀬 裕 也

地球科学科

●今 井 雄 輝
大 脇 良 夫
中 野 貴 史
山 田 賢

生物圏環境科学科

北 村 夏 子
小 路 翔 子
松 下 真 帆

●は学長表彰者

富山大学理学部後援会

〒930-8555 富山市五福3190
TEL 076-445-6143 FAX 076-445-6142
HP <http://www3.u-toyama.ac.jp/safs/>
e-mail safs@sci.u-toyama.ac.jp

編 集 後 記

理学部後援会報8号をお届けします。3大学が統合されて7年半、法人化されて9年がたちました。デフレスパイラルが言われてから久しくなりますが、最近のアベノミクスに期待して良いのかどうか。現実には研究教育の予算が急降下しています。こんななかでも学生と教員が元気に頑張っています。日々の学生生活、日々の勉学、卒論・修論での研究等、その一端をこの「りっか」で少しでも皆様にお伝えできればと思っています。(理学部広報委員会委員長 石川 義和)